

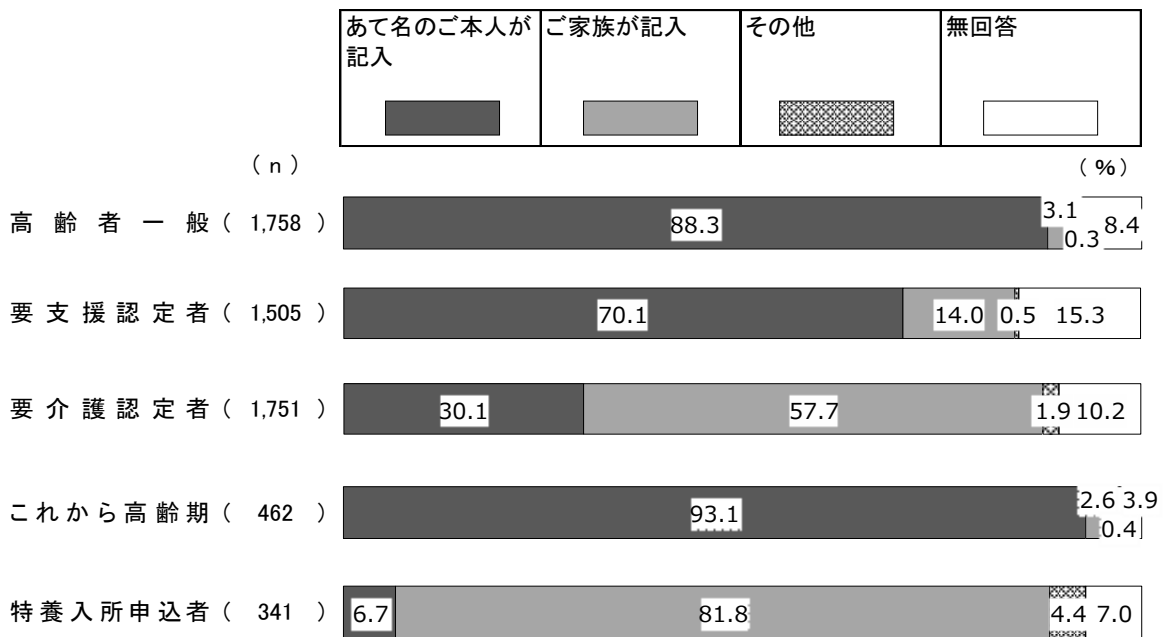
第2章 高齡者基礎調查

1. 回答者の基本属性

(1) 調査票の記入者

①記入者

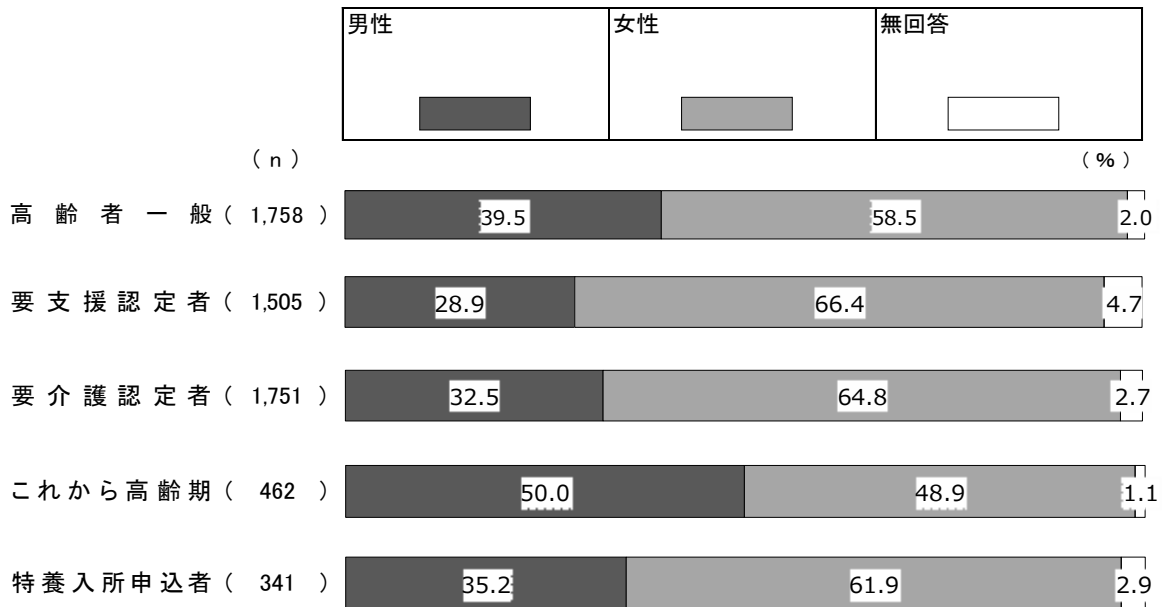
- 高齢者一般では、「あて名のご本人が記入」が88.3%、「ご家族が記入」が3.1%となっている。
- 要支援認定者では、「あて名のご本人が記入」が70.1%、「ご家族が記入」が14.0%となっている。
- 要介護認定者では、「ご家族が記入」が57.7%、「あて名のご本人が記入」が30.1%となっている。
- これから高齢期では、「あて名のご本人が記入」が93.1%、「ご家族が記入」が2.6%となっている。
- 特養入所申込者では、「ご家族が記入」が81.8%、「あて名のご本人が記入」が6.7%となっている。



(2) 性別

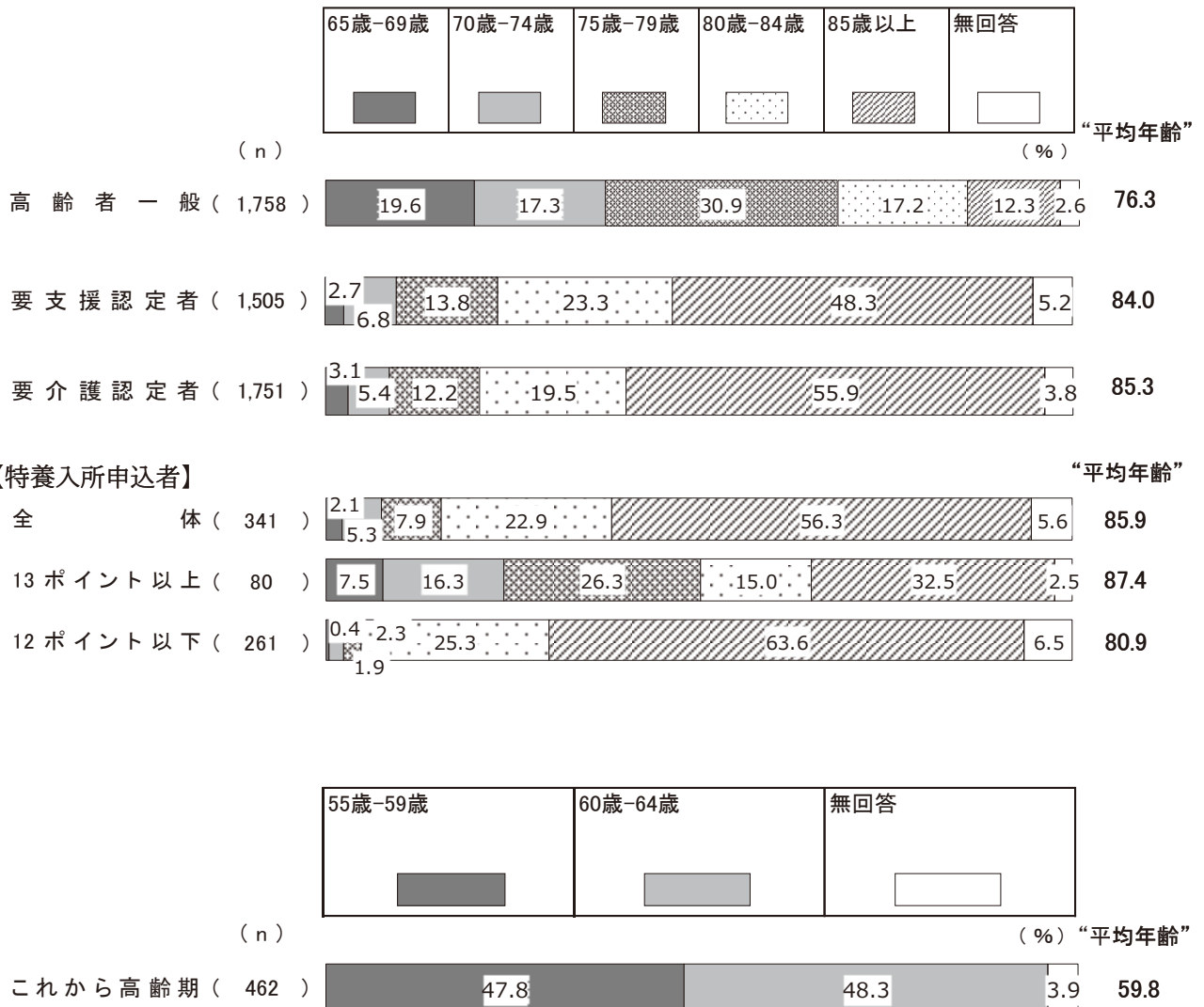
○高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者および特養入所申込者では、「女性」の割合が高く、それぞれ58.5%、66.4%、64.8%、61.9%となっている。

○これから高齢期では、「男性」が50.0%となっている。



(3) 年齢

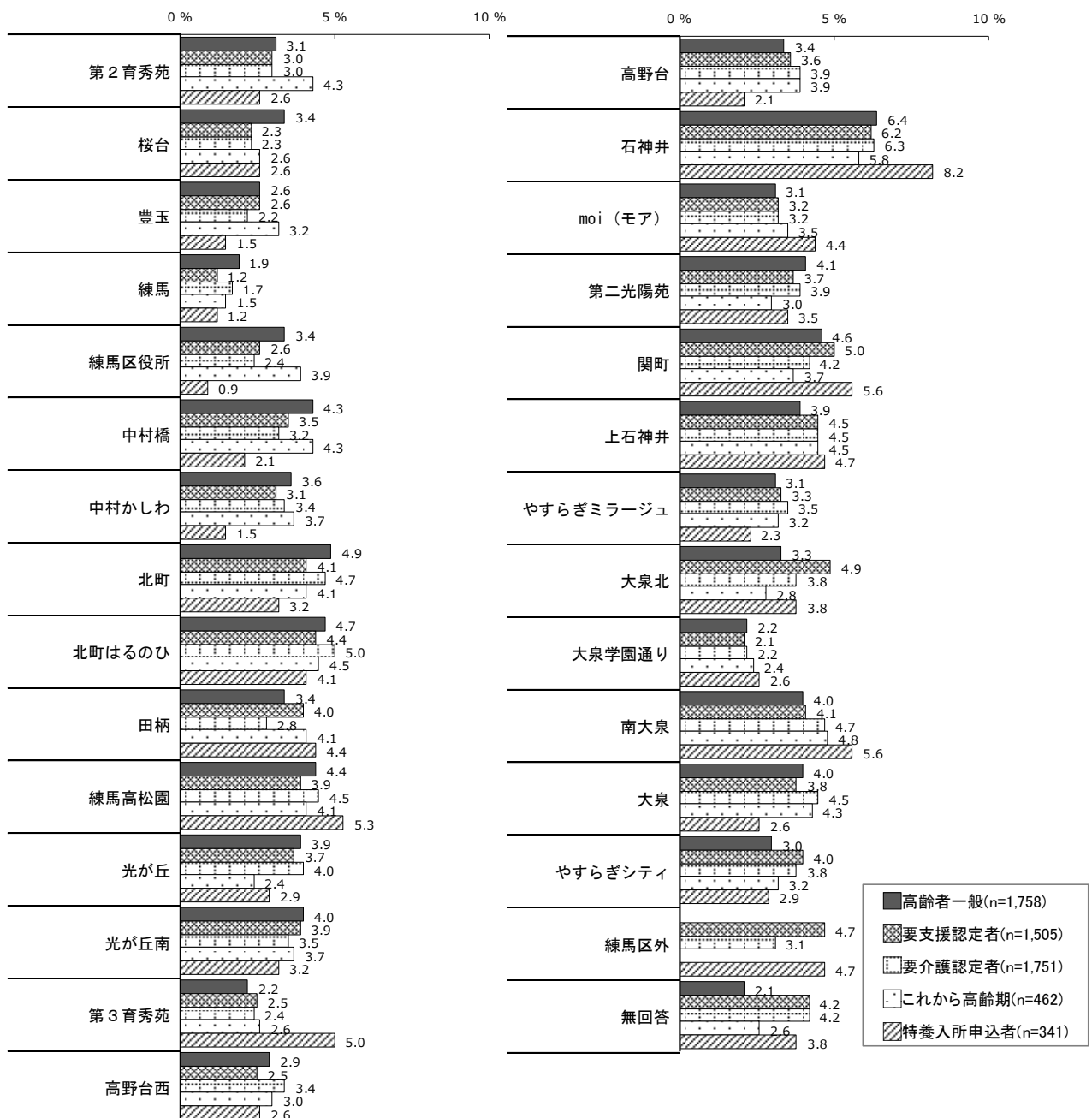
- 高齢者一般では、「前期高齢者」が36.9%、「後期高齢者」が60.4%で、“平均年齢”は76.3歳となっている。
- 要支援認定者では、「前期高齢者」が9.5%、「後期高齢者」が85.4%で、“平均年齢”は84.0歳となっている。
- 要介護認定者では、「前期高齢者」が8.5%、「後期高齢者」が87.6%で、“平均年齢”は85.3歳となっている。
- 特養入所申込者では、「前期高齢者」が7.4%、「後期高齢者」が87.1%で、“平均年齢”は85.9歳となっている。
- これから高齢期では、「55歳～59歳」が47.8%、「60歳～64歳」が48.3%で、“平均年齢”は59.8歳となっている。



(4) 居住地区

①日常生活圏域

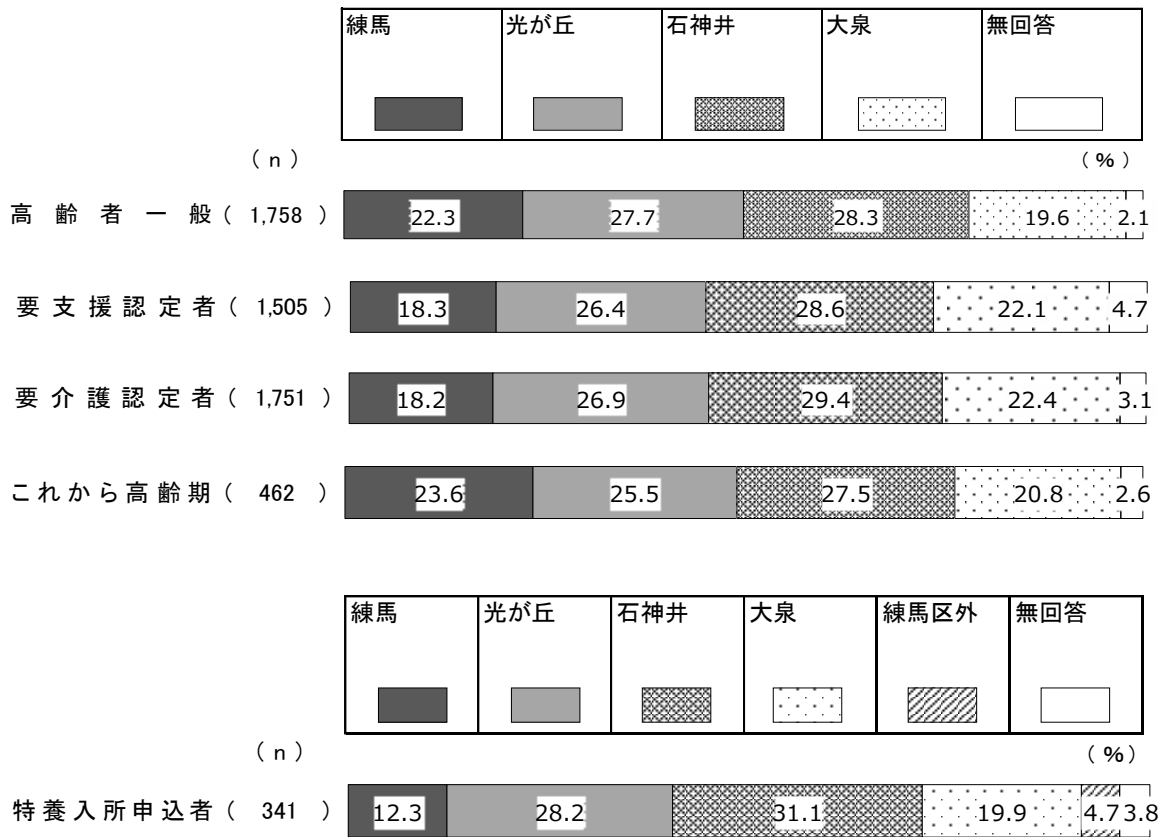
- 高齢者一般では、「石神井」(6.4%)が最も高く、次いで「北町」(4.9%)の順となっている。
- 要支援認定者では、「石神井」(6.2%)が最も高く、次いで「関町」(5.0%)の順となっている。
- 要介護認定者では、「石神井」(6.3%)が最も高く、次いで「北町はるのひ」(5.0%)の順となっている。
- これから高齢期では、「石神井」(5.8%)が最も高く、次いで「南大泉」(4.8%)の順となっている。
- 特養入所申込者では、「石神井」(8.2%)が最も高く、次いで「関町」および「南大泉」(ともに5.6%)の順となっている。



※「第2育秀苑」は令和8年4月から「みらい青空」に名称が変更となる。

②基本地区

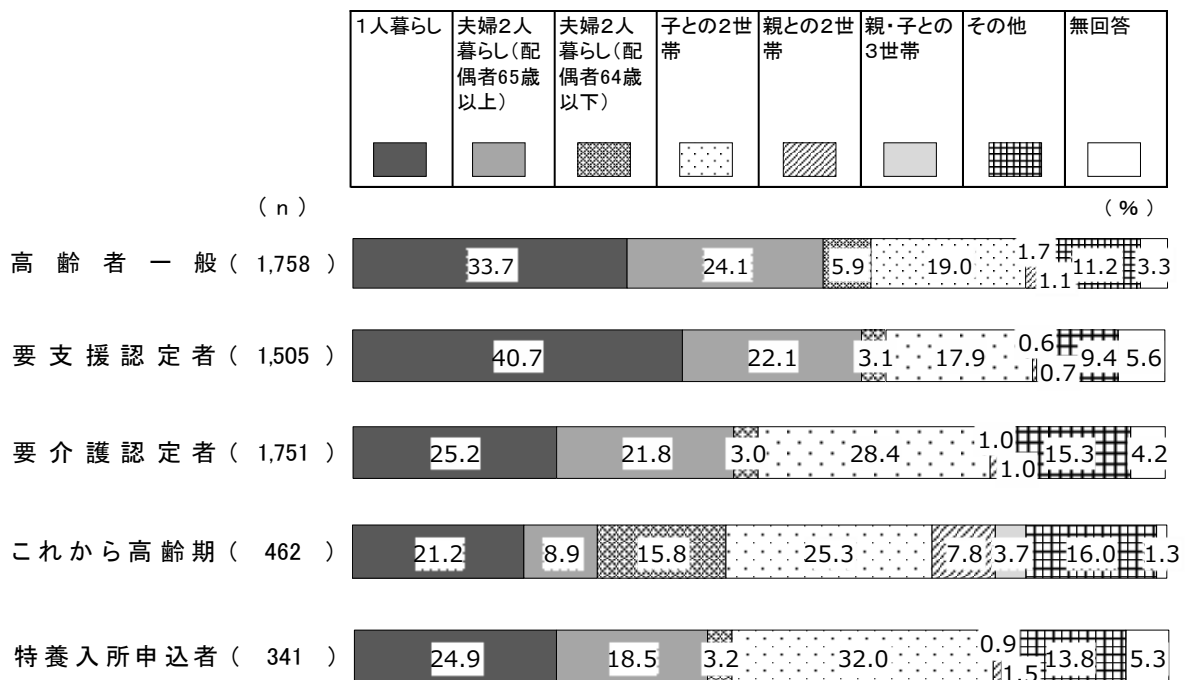
- 高齢者一般では、「石神井」(28.3%)が最も高く、次いで「光が丘」(27.7%)の順となっている。
- 要支援認定者では、「石神井」(28.6%)が最も高く、次いで「光が丘」(26.4%)の順となっている。
- 要介護認定者では、「石神井」(29.4%)が最も高く、次いで「光が丘」(26.9%)の順となっている。
- これから高齢期では、「石神井」(27.5%)が最も高く、次いで「光が丘」(25.5%)の順となっている。
- 特養入所申込者では、「石神井」(31.1%)が最も高く、次いで「光が丘」(28.2%)の順となっている。



(5) 世帯の状況

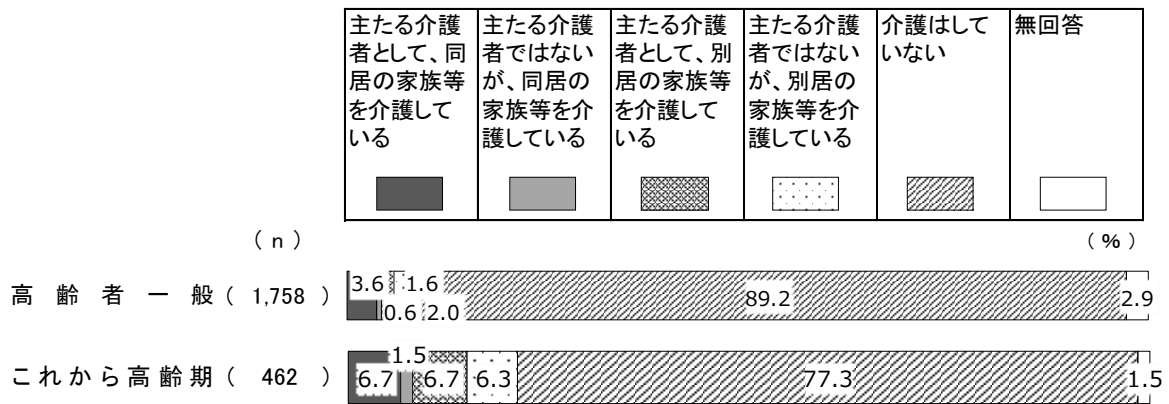
①世帯構成

- 高齢者一般では、「1人暮らし」(33.7%)が最も高く、次いで「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(24.1%)の順となっている。
- 要支援認定者では、「1人暮らし」(40.7%)が最も高く、次いで「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(22.1%)の順となっている。
- 要介護認定者では、「子との2世帯」(28.4%)が最も高く、次いで「1人暮らし」(25.2%)の順となっている。
- これから高齢期では、「子との2世帯」(25.3%)が最も高く、次いで「1人暮らし」(21.2%)の順となっている。
- 特養入所申込者では、「子との2世帯」(32.0%)が最も高く、次いで「1人暮らし」(24.9%)の順となっている。



②介護の有無

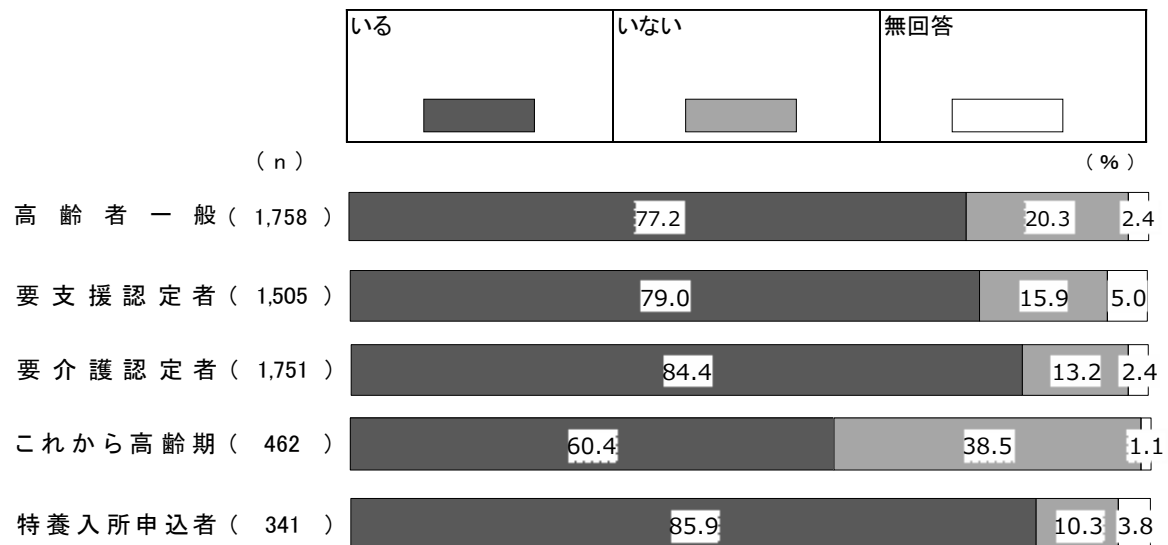
○いずれの調査でも「介護はしていない」が最も高く、高齢者一般では89.2%、これから高齢期では77.3%となっている。



③子どもの有無

○子どもが「いる」は、高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者、特養入所申込者で7割から8割となっている。

○これから高齢期では、子どもは「いない」が38.5%となっている。



[子どもの有無<年代別(高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者)>]

○年代別にみると、いずれの調査でも「前期高齢者」は、子どもが「いない」が「後期高齢者」と比べて高くなっている。子どもが「いない」と回答した「前期高齢者」は、高齢者一般が24.4%、要支援認定者が34.3%、要介護認定者が36.0%となっている。

	n	いる	いない	無回答
高齢者一般	1,758	77.2	20.3	2.4
前期高齢者(65歳-74歳)	648	74.8	24.4	0.8
後期高齢者(75歳以上)	1,064	80.7	18.2	1.0
要支援認定者	1,505	79.0	15.9	5.0
前期高齢者(65歳-74歳)	143	65.7	34.3	-
後期高齢者(75歳以上)	1,284	84.3	14.6	1.1
要介護認定者	1,751	84.4	13.2	2.4
前期高齢者(65歳-74歳)	150	64.0	36.0	-
後期高齢者(75歳以上)	1,534	88.4	11.3	0.3

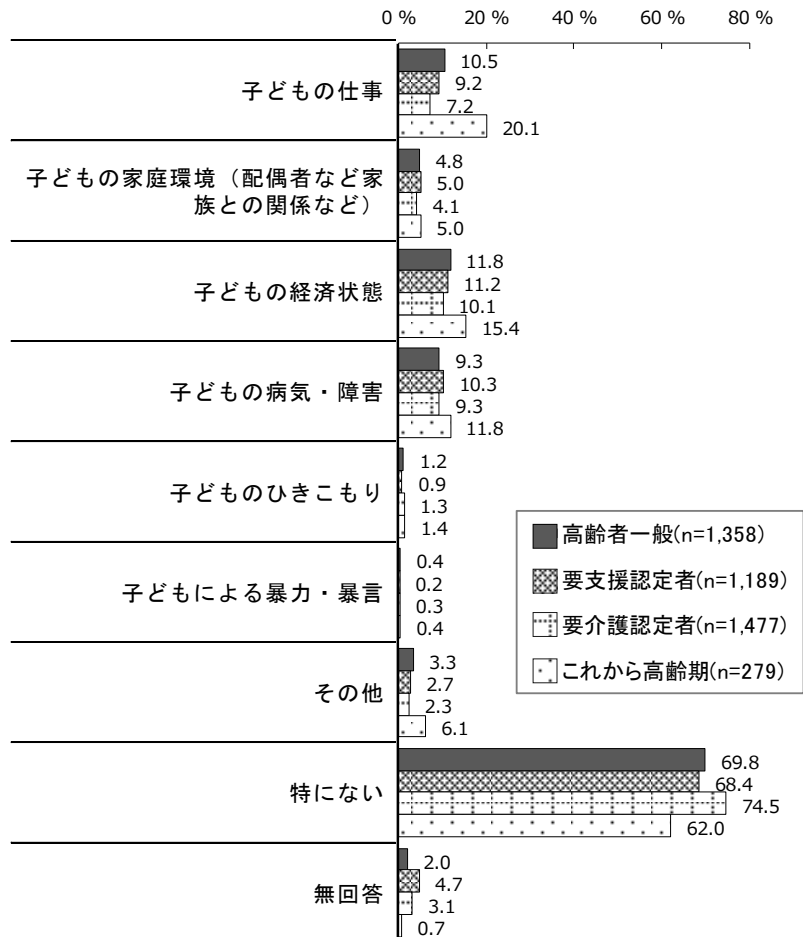
④子どもに関する心配ごと

○子どもが「いる」と回答した人の子どもに関する心配ごとは、いずれの調査でも「特にない」が最も高く、6割から7割となっている。

○心配ごととして、高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者では、「子どもの経済状態」が最も高く、1割台となっている。

○これから高齢期では、「子どもの仕事」が最も高く、20.1%となっている。

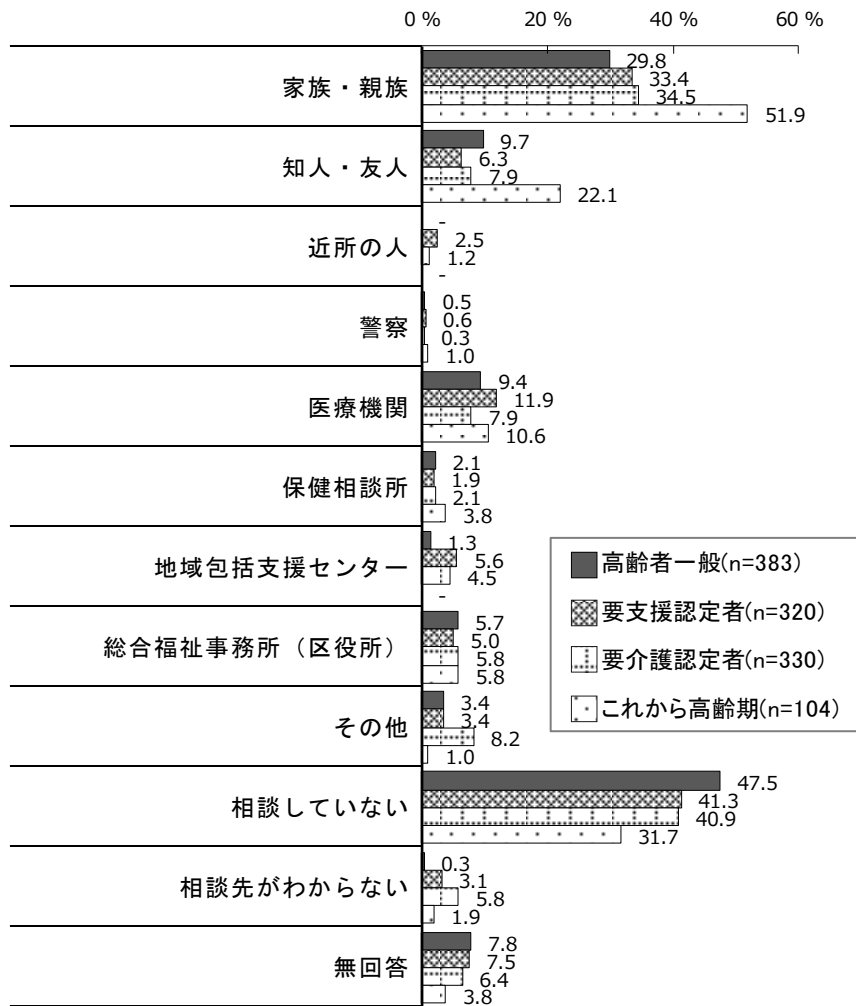
(複数回答)



⑤子どもに関する心配ごとの相談状況

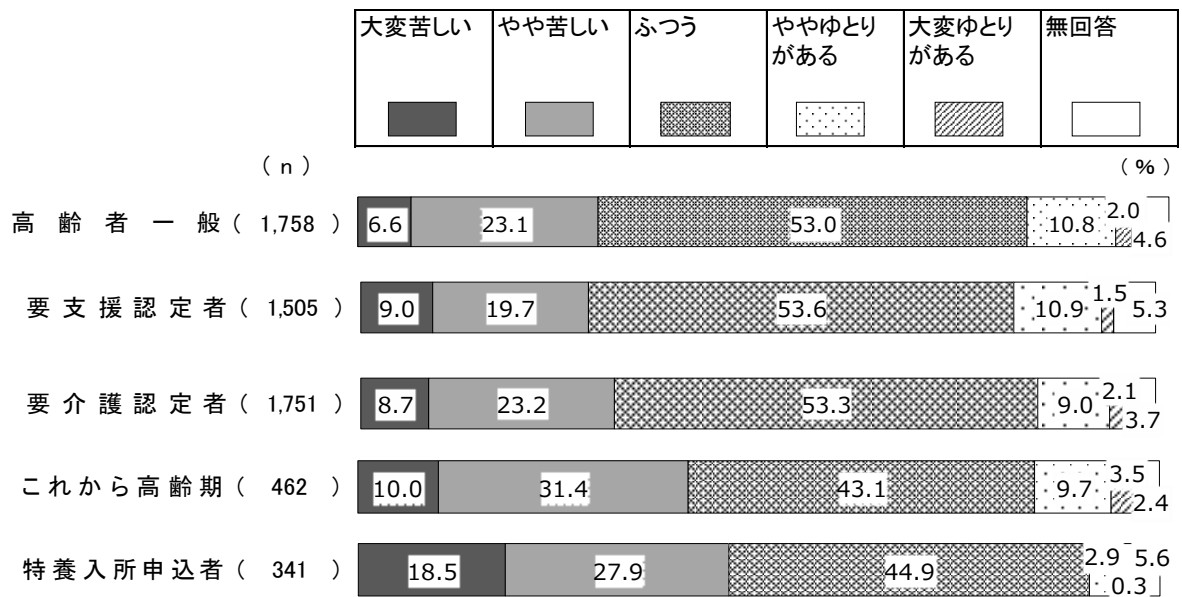
- 高齢者一般では、「相談していない」(47.5%)が最も高く、次いで「家族・親族」(29.8%)の順となっている。
- 要支援認定者では、「相談していない」(41.3%)が最も高く、次いで「家族・親族」(33.4%)の順となっている。
- 要介護認定者では、「相談していない」(40.9%)が最も高く、次いで「家族・親族」(34.5%)の順となっている。
- これから高齢期では、「家族・親族」(51.9%)が最も高く、次いで「相談していない」(31.7%)の順となっている。

(複数回答)



(6) 暮らし向き

○経済的状況は、いずれの調査でも「ふつう」が最も高く、4割から5割となっている。



[暮らし向き<経年比較(高齢者一般)>]

○令和4年度の調査結果と比較すると、「大変苦しい」が3.1ポイント低くなっている。

	n	大変苦しい (%)	やや苦しい (%)	ふつう (%)	ややゆとりがある (%)	大変ゆとりがある (%)	無回答 (%)
令和7年度	1,758	6.6	23.1	53.0	10.8	2.0	4.6
令和4年度	1,516	9.7	22.8	52.3	10.7	2.5	2.0